

自己評価書（別添資料編）イメージ

基準 1 「高等専門学校の目的」、基準 2 「教育組織（実施体制）」、
基準 3 「教員及び教育支援者等」、基準 4 「学生の受入」、
基準 5 「教育内容及び方法」、基準 6 「教育の成果」、
基準 9 「教育の質の向上及び改善のためのシステム」の一部

添付されている資料等は、実在する高等専門学校と一切関係なく作成しております。

「自己評価担当者等に対する研修会」

- 高等専門学校機関別認証評価においては、対象高等専門学校が行う自己評価が重要な位置を占めています。
- 各高等専門学校は、自己評価実施要項に従って、自己評価を実施し、自己評価書を作成します。自己評価は、基準ごとに、その内容を踏まえ基本的な観点に従って、高等専門学校の教育活動等の状況を分析し、記述します。各高等専門学校には、原則としてすべての基本的な観点に係る状況を分析、記述することが求められます。また、基準ごとに観点の分析の中から目的を踏まえて、優れた点や改善を要する点を抽出し、記述します。
- 本書（イメージ）は各高等専門学校が自己評価書を作成するにあたり、その作業が円滑に進むよう、記述・内容のイメージを掴んでいただくために、作成したものです。本書（イメージ）は、11の基準及び2つの選択的評価事項のうち、特に基準1「高等専門学校の目的」、基準2「教育組織（実施体制）」、基準3「教員及び教育支援者等」、基準4「学生の受入」、基準5「教育内容及び方法」、基準6「教育の成果」及び基準9「教育の質の向上及び改善のためのシステム」の一部を例として取り上げ、高等専門学校の教育活動等の状況について、自己評価実施要項の「第2章 自己評価の方法等」（P 3～6）及び「第3章 自己評価書等の作成及び提出方法」（P 7～17）に従って、記述しています。
- 本書（イメージ）は、高等専門学校で取り組んでいると思われる様々な活動等の内容を基に、あくまでもイメージとして作成したものです。
- 各高等専門学校においては、本書（イメージ）の記述内容はあくまで参考に留め、各高等専門学校の目的等に照らして、現状の教育活動等の状況について、自己評価を実施してください。

資料 1-1-①-1

小平工業高等専門学校学則（抜粋）

第 1 章 本校の使命

第 1 条 本校は、教育基本法に則り、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを使命とする。

（出典 小平工業高等専門学校学則 P. 〇）

資料 1-1-①-2

「教育理念等見直しの際の会議資料」

（出典 平成×年×月×日 〇〇会議資料）

資料 1-1-①-3

教育理念等

教 育 理 念

優れた人格を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成

教 育 目 標

- 1 豊かな教養と感性を育て、人間性豊かなエンジニアとして活躍するための教育を行う。
- 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 4 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

養成すべき人材像

準学士課程

進取の気風に富み、豊かな教養と、専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことができる、ものづくりの基盤技術を支える、創造性豊かな、企業から信頼される指導的な実践的技術者

機械工学科

- ・
- ・

専攻科課程

進取の気風に富み、幅広い豊かな教養と、質の高い専門の工業技術の知識を身に付けて、常に探求心を持ち、技術革新を促進することができる、ものづくりの技術発展を支える、創造性豊かな、国際社会で活躍できる開発型技術者

機械工学専攻

- ・
- ・

卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

準学士課程

- 1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。
- 2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。

<p>3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>専攻科課程</p> <p>A 技術者が担う社会的責任、科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。</p> <p>B 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に応用できる能力を身に付ける。</p> <p>C 豊かな国際感覚を持ち、英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>D 開発型技術者として、工学の深い専門知識と問題解決能力や創造性、意欲を身に付ける。</p> <p>・</p> <p>・</p> <p style="text-align: right;">(出典 小平工業高等専門学校概要 P. ○、小平工業高等専門学校学則 P. ○)</p>

資料 1 - 1 - ① - 4

「深く専門の学芸を教授」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
<p>準学士課程の養成すべき人材像のうち、 専門の工業技術の知識を身に付けて・・・</p>	<p>準学士課程の養成すべき人材像のうち、 企業から信頼される指導的な実践的技術者・・・</p>
<p>専攻科課程の養成すべき人材像のうち、 ・・・・・・・・・・。</p>	<p>専攻科課程の養成すべき人材像のうち、 ・・・・・・・・・・。</p>
<p>準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、 ・・・・・・・・</p>	<p>準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、 ・・・・・・・・</p>
<p>専攻科課程の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、 ・・・・・・・・</p>	<p>専攻科課程の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、 ・・・・・・・・</p>

(出典 平成×年×月 ○○会議資料)

資料 1 - 2 - ① - 1

1. 本校の使命

本校の使命は、次に掲げるとおりです。

本校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを使命とする。

2. 本校の教育理念

本校の教育理念は、次に掲げるとおりです。

優れた人格を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成

3. 本校の教育目標

本校の教育目標は、次に掲げるとおりです。

- 1 豊かな教養と感性を育て、人間性豊かなエンジニアとして活躍するための教育を行う。
- 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に答え得る実践的技術者の養成を行う。
- 4 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

4. 養成すべき人材像

本校では、次のような人材を養成します。

準学士課程

進取の気風に富み、豊かな教養と、専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことができる、ものづくりの基盤技術を支える、創造性豊かな、企業から信頼される指導的な実践的技術者

機械工学科

専攻科課程

進取の気風に富み、幅広い豊かな教養と、質の高い専門の工業技術の知識を身に付けて、常に探求心を持ち、技術革新を促進することができる、ものづくりの技術発展を支える、創造性豊かな、国際社会で活躍できる開発型技術者

機械工学専攻

5. 卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

本校では、先に挙げた養成すべき人材像のほかに、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力をより具体的に定め、学習する際の指針としています。

準学士課程

- 1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。
- 2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。

専攻科課程

- A 技術者が担う社会的責任、科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。
- B 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に活用できる能力を身に付ける。

(出典 学校概要 P. 〇)

小平工業高等専門学校

● 本校の使命

本校は、教育基本法に則り、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを使命とする。

● 本校の教育理念

優れた人格を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成

● 本校の教育目標

- 1 豊かな教養と感性を育て、人間性豊かなエンジニアとして活躍するための教育を行う。
- 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に答え得る実践的技術者の養成を行う。
- 4 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

● 養成すべき人材像

本校では、次のような人材を養成します。

○ 準学士課程

進取の気風に富み、豊かな教養と、専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことができる、ものづくりの基盤技術を支える、創造性豊かな、企業から信頼される指導的な実践的技術者

機械工学科

○ 専攻科課程

進取の気風に富み、幅広い豊かな教養と、質の高い専門の工業技術の知識を身に付けて、常に探求心を持ち、技術革新を促進することができる、ものづくりの技術発展を支える、創造性豊かな、国際社会で活躍できる開発型技術者

機械工学専攻

● 卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

本校では、先に挙げた養成すべき人材像のほかに、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力をより具体的に定め、学習する際の指針としています。

○ 準学士課程

- 1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。
- 2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。

・

○ 専攻科課程

- A 技術者が担う社会的責任、科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。
- B 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に活用できる能力を身に付ける。

・

(出典 本校ウェブサイト)

資料 1 - 2 - ① - 3

諸規則等

・学則

第 1 条 本校は、教育基本法に則り、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを使命とする。

(出典 学生便覧 P. 〇)

資料 1 - 2 - ① - 4

本校では次のことを十分に理解した上で教育研究活動を実施することが求められます。

○本校の使命

本校は、教育基本法に則り、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを使命とする。

○本校の教育理念

優れた人格を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成

○本校の教育目標

1. 豊かな教養と感性を育て、人間性豊かなエンジニアとして活躍するための教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の養成に答え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

○養成すべき人材像

準学士課程

進取の気風に富み、豊かな教養と、専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことができる、ものづくりの基盤技術を支える、創造性豊かな、企業から信頼される指導的な実践的技術者

機械工学科

・

専攻科課程

.

機械工学専攻

・

・

○卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

準学士課程

- 1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。

・

(出典 平成 X 年度初任者研修資料)

学習等達成度記録簿

機械工学科

氏名 _____

○学習達成度の自己点検

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	5【達成した】→・・・→1【未達成である】				
	1年	2年	3年	4年	5年
1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。					
2 人科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。					
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。					
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。					
・ ・ ・					

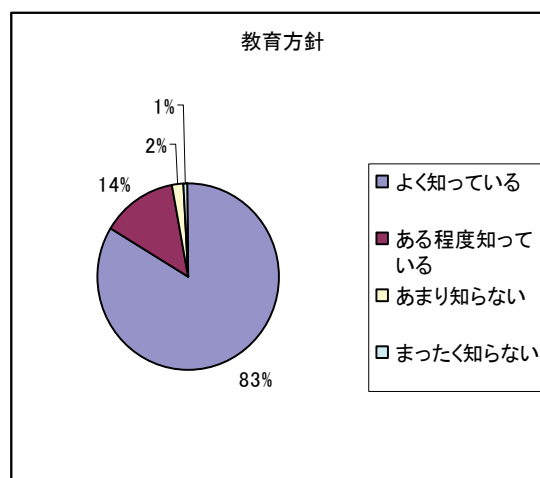
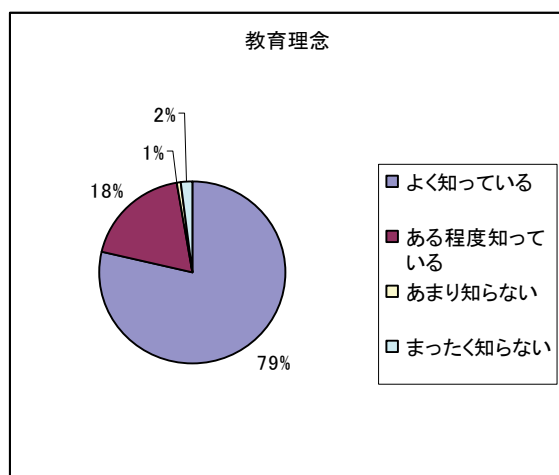
(出典 平成×年×月×日 「学習達成度記録簿」 抜粋)

資料 1 - 2 - ① - 6

教職員（非常勤講師を含む）に対するアンケート結果

1. 本校の教育理念を知っていますか。
- (1) よく知っている
 (2) ある程度知っている
 (3) あまり知らない
 (4) まったく知らない
2. 本校の教育目標を知っていますか。
- (1) よく知っている
 (2) ある程度知っている
 (3) あまり知らない
 (4) まったく知らない
3. 本校の準学士課程及び専攻科課程の養成すべき人材像を知っていますか。
- (1) よく知っている
 (2) ある程度知っている
 (3) あまり知らない
 (4) まったく知らない
4.
- (1) よく知っている
 (2) ある程度知っている
 (3) あまり知らない
 (4) まったく知らない

	教育理念	教育目標	養成すべき人材像
よく知っている	81	86	85
ある程度知っている	19	14	10
あまり知らない	1	2	5
まったく知らない	2	1	3



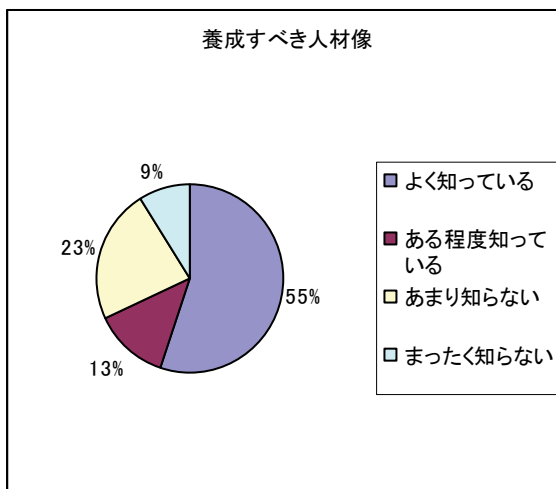
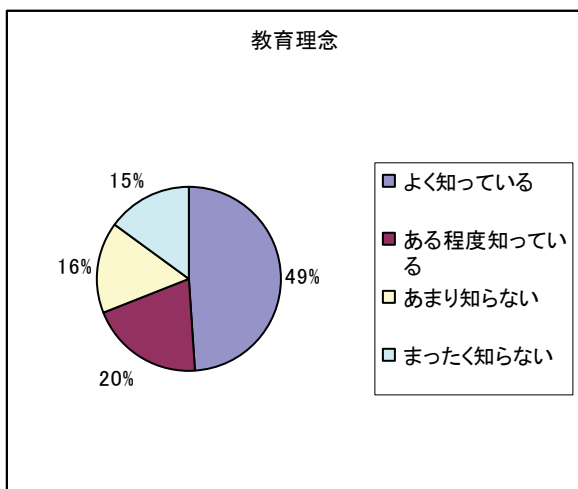
(出典 平成×年×月×日 ○○会議資料)

資料 1 - 2 - ① - 7

準学士課程の学生に対するアンケート結果

- 1. 本校の教育理念を知っていますか。
 - (1) よく知っている
 - (2) ある程度知っている
 - (3) あまり知らない
 - (4) まったく知らない
- 2. 本校の養成すべき人材像を知っていますか。
 - (1) よく知っている
 - (2) ある程度知っている
 - (3) あまり知らない
 - (4) まったく知らない
- 3. 準学士課程卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力を知っていますか。
 - (1) よく知っている
 - (2) ある程度知っている
 - (3) あまり知らない
 - (4) まったく知らない
- 4.
 - (1) よく知っている
 - (2) ある程度知っている
 - (3) あまり知らない
 - (4) まったく知らない

	教育理念	養成すべき人材像	身に付けるべき学力や資質能力
よく知っている	49	55	67
ある程度知っている	20	13	9
あまり知らない	16	23	21
まったく知らない	15	9	3



(出典 平成×年×月×日 ○○会議資料)

資料 1 - 2 - ① - 8

専攻科課程の学生に対するアンケート結果

1. 本校の教育理念を知っていますか。

- (1) よく知っている
- (2) ある程度知っている
- (3) あまり知らない
- (4) まったく知らない

3. 専攻科課程修了時に身に付けるべき学力や資質・能力を知っていますか。

- (1) よく知っている
- (2) ある程度知っている
- (3) あまり知らない
- (4) まったく知らない

2.

4.

●本校の使命

本校は、教育基本法に則り、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを使命とする。

●本校の教育理念

優れた人格を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成

●本校の教育目標

- 1 豊かな教養と感性を育て、人間性豊かなエンジニアとして活躍するための教育を行う。
- 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 4 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

●養成すべき人材像

本校では、次のような人材を養成します。

○準学士課程

進取の気風に富み、豊かな教養と、専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことができる、ものづくりの基盤技術を支える、創造性豊かな、企業から信頼される指導的な実践的技術者

○専攻科課程

進取の気風に富み、幅広い豊かな教養と、質の高い専門の工業技術の知識を身に付けて、常に探求心を持ち、技術革新を促進することができる、ものづくりの技術発展を支える、創造性豊かな、国際社会で活躍できる開発型技術者

●卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

本校では、先に挙げた養成する人材像のほかに、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力をより具体的に定め、学習する際の指針としています。

○準学士課程

- 1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。
- 2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。

・

○専攻科課程

- A 技術者が担う社会的責任、科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。
- B 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に活用できる能力を身に付ける。

(出典 本校ウェブサイト)

資料 1-2-②-2

「入学案内」や「学校案内」に記載している本学の使命

(出典 「平成×年度入学(学校)案内」P. ○)

「入学案内」や「学校案内」に記載している課程ごとの養成すべき人材像及び
卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力の掲載箇所

(出典 「平成×年度入学(学校)案内」P. △)

資料 1-2-②-3

オープンキャンパスの参加人数、「入学案内」等を基に目的を説明していることが確認できる)プログラム等

(出典 オープンキャンパスプログラム、学生課資料)

資料 1-2-②-4

中学校訪問の対象校、「入学案内」配布部数等

(出典 学生課資料)

資料 1-2-②-5

「入学案内」、「学校案内」配布先一覧等

就職先である関連企業先、進学先等に対する「入学案内」、「学校案内」の配布部数

(出典 学生課資料)

資料 2 - 1 - ① - 1

学科構成

第 7 条 学科、学級数及び入学定員は次のとおりとする。

	学級数	入学定員
機械工学科	1	40 人
電気工学科	1	40 人
物質工学科	1	40 人
建築学科	1	40 人

(出典 平成×年度学生便覧 P. ○)

資料 2 - 1 - ① - 2

各学科の概要

【機械工学科】 機械工学科では、人々の生活に根ざした社会に役立つものづくりの基礎を学ぶためのカリキュラムを基に、広範囲な基礎的知識を学ぶとともに、実験・実習を多く取り入れ、実践力を身に付ける。また、卒業研究では、テーマの設定からすべて学生自身が行い、創造性を伸ばすとともにあらゆる視点から考える力を修得させ、社会に輩出する。

【電気工学科】 電気工学科では、技術の発展がめざましく、また社会ニーズが高いことを鑑み、電子工学、制御工学、情報工学、電力工学、生命環境工学などの基礎知識を学ぶとともに、最新の技術を取り入れた研究能力を養い、実践的な技術者として即戦力のある人材を輩出する。

【物質工学科】・・・・・・・・・・

【建築学科】・・・・・・・・・・

(出典 平成×年度学校概要 P. ○)

資料 2-1-①-3

各学科の教育目標

【機械工学科】機械工学の基礎知識、基礎技術を修得し、更に、設計から製作までの総合的な能力を身に付けている。また、コンピュータ支援による種々の工学的手法を駆使し、かつ周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決できる能力を身に付ける。

【電気工学科】電気工学の主たる分野であるエネルギー、電子、制御、通信、情報の基礎知識と基礎技術を修得し、実践的技術者としての素養と能力を身に付ける。

【物質工学科】高度化する化学技術に対応できる基礎学力と豊かな創造力を有する。また、地球環境に配慮しながら資源を有効に活用し、新素材や医薬品等を製造開発できる実践的技術を身に付ける。

【建築学科】建築の設計から施工までの建築全般にわたる幅広い知識を身につけており、建築物の安全性や環境形成への影響などに対する社会的責任感も有している。更に、建築設計におけるコンピュータの実務利用等、高度化するソフトウェア環境に適應できる実践能力と、規格化されていない問題も解決できる能力とを身に付ける。

(出典 平成×年度学校要覧 P. ○)

資料2-1-③-1

○小平工業高等専門学校情報処理センター規程

昭和49年4月1日制定

第1条 小平工業高等専門学校情報処理センター(以下「情報処理センター」という)は本校における計算機システム利用の推進を図ることを目的として設置する。

第2条 情報処理センターは、次の業務を行う。

- (1) 情報処理教育に関する教育、研究、開発及び普及
- (2) 計算機システムの維持管理及び運用
- (3) LANの管理及び運用に関すること。
- (4) その他情報処理センターに関する業務

第3条 情報処理センターに次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 主任 若干人
- (3) アドバイザー 各学科、一般教育科の教員及び事務部各課のうちから互選された者各1人
- (4) センター員 若干人

2 職員の職務は、次のとおりとする。

- (1) センター長は、情報処理センターの業務を統括する。
- (2) 主任は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときはその職を代行する。
- (3) アドバイザーはLANの利用に関する指導を主な業務とする。
- (4) センター員はセンター長の指示に従い、センターの業務を行う。

3 センター長は、本校専任教員の中から校長が任命し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 主任は必要に応じ本校専任教員の中から校長が任命し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 アドバイザーは校長が任命し、その任期は別に定める。

6 センター員は必要に応じ本校職員の中から校長が任命する。

第4条 情報処理センターの運営に関する基本事項を審議するため、小平工業高等専門学校情報処理センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

第5条 情報処理センターの利用に関する必要な事項は別に定める。

情報処理センターの活用状況

	8:50~9:40	9:50~10:40	10:50~11:40
月	情報処理基礎 A			情報応用工学
火				
水	情報処理応用		自由利用時間	
木			情報処理基礎 B	
・				
・				

(出典 自己点検・評価書第〇号 P. △)

○小平工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程
平成14年5月30日全面改正

小平工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程(平成14年1月17日制定)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規程は、小平工業高等専門学校内部組織規定(平成9年1月23日制定)第8条第2項の規定に基づき、小平工業高等専門学校地域共同テクノセンター(以下「センター」という。)の組織、運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、小平工業高等専門学校(以下「本校」という。)と地域との連携を強化するため、本校における産学官の交流及び共同研究等の産学官連携・協力事業を推進するとともに、地域の公的機関等との連携の下に公開講座、学校開放、各種講演会講師派遣、イベント参加などの事業(以下「民学官連携・協力事業」という。)を積極的に企画・実施し、もって地域の産業振興及び地域住民の生涯学習の促進並びに本校の教育研究活動の活性化を図るものとする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1)産学官連携・協力に関する事項
 - ア 産学官連携・協力事業推進のための企画・運営
 - イ 共同研究、受託研究及び受託試験等の推進
 - ウ 技術開発の相談
 - エ 技術研修会、講演会等の普及啓発活動の企画・運営
 - オ 産学官連携・協力事業に関する広報活動
 - カ 学内における共同研究の推進
- (2)民学官連携・協力に関する事項
 - ア 民学官連携・協力事業推進のための企画・運営
 - イ 公開講座、学校開放等の企画、調整、実施
 - ウ 各種講演会等への講師派遣及びその調整
 - エ 民学官連携・協力事業に関する広報活動
- (3)教育上の利用に関する事項
 - ア 卒業研究・特別研究の実施
 - イ 実験・実習の実施

(組織)

第4条 前条の業務を遂行するため、センターに産学官連携部門及び民学官連携部門を置く。

2 センターに次の職員を置く。

- (1)センター長
- (2)副センター長 2人
- (3)センター員 若干人
- (4)その他必要な職員(センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を統括する。

- 2 センター長は、本校の教授の中から校長が任命する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第6条 副センター長は、センター長を補佐し、それぞれ「産学官連携部門」又は「民学官連携部門」の責任者となる。

- 2 副センター長は、本校の教員の中から校長が任命する。
- 3 副センター長の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 4 副センター長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第7条 センター員は、副センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

- 2 センター員は、必要に応じ本校教職員の中から校長が任命する。
- 3 センター員の任期は1年とし、再任を妨げない。(学科長会議の了承)

第8条 センターの業務のうち全校に関係する重要事項については、学科長会議に報告し、その了承を得るものとする。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、地域連携推進及びセンターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

資料2-1-③-4

地域共同テクノセンターを利用した実験科目における利用状況

(出典 平成×年度地域共同テクノセンター年報P. ○)

資料2-1-③-5

【授業科目名】 工作実習 I (必修科目)

【対象学科名・学年】 機械工学科 2年次

【担当教員】 ○○ ○○、□□ □□

【単位数】 4単位

【授業の目的と概要】 主に、地域共同テクノセンターにおいて、レーザ加工機、三次元測定器等の機器の基本的な操作を修得する。

- ・
- ・
- ・

(出典 平成×年度シラバスP. ○)

資料2-1-③-6

地域共同テクノセンターを利用した卒業研究、特別研究の一覧

(出典 平成×年度地域共同テクノセンター年報P. ○)

資料3-1-①-1

一般教育科教員の数

	数学	英語	国語	物理 化学	社会	体育	音楽 美術	合計
教授	3	2	1	2	1	1	0	10
准教授	2	2	1	0	1	1	0	7
講師	0	1	0	0	0	0	0	1
助教	0	0	0	1	0	0	0	1
助手	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5	5	2	3	2	2	0	19
非常勤講師	3	3	2	4	4	3	3	23
合計	8	8	4	7	6	5	3	42

(出典 平成×年度小平工業高等専門学校概要 P. 〇)

資料3-1-①-2

一般教育科教員の専門分野と担当授業科目

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	小平 一郎	博士(理学)	数 学	数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 微積分
教授	国分寺 三郎	修士(法学)	法哲学	倫理・社会
:	:	:	:	:
准教授	マイケル・コスナー		イギリス文学	総合英語, 英語スキルズ
:	:	:	:	:
講師	立川 健	工学修士	応用物理	物理Ⅰ, 物理Ⅱ, 応用物理
:	:	:	:	:
非常勤講師	国立 五郎	修士(国文学)	文学史	国語Ⅰ, 古典文学

(出典 学生課資料)

資料3-1-②-1

専門科目担当教員の数

	機械工学科	電気工学科	物質工学科	建築学科	合計
教授	4	4	5	4	17
准教授	5	4	4	3	16
講師	1	2	1	3	7
助教	1	2	0	0	3
助手	1	0	0	0	1
計	12	12	10	10	44
非常勤講師	3	3	2	2	10
合計	15	15	12	12	54

(出典 平成×年度小平工業高等専門学校概要 P. 〇)

資料3-1-②-2

専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（機械工学科）

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況
教授	青森 喜一	博士（工学）	流体力学	流体力学、水力学	（株）小平工業12年勤務
教授	秋田 俊郎	博士（工学）	材料力学	工学入門、材料力学	
：	：	：	：	：	：
准教授	岩手 大三郎	博士（工学）	情報通信工学	電気電子回路	（株）杉並工業7年勤務
准教授	宮城 信二	博士（工学）	光応用計測	情報処理Ⅰ、計測工学	国分工業（有）8年勤務
：	：	：	：	：	：
講師	山形 健太	修士（工学）	破壊工学	設計製図、機械力学	（有）村山工業8年勤務
：	：	：	：	：	：

（出典 学生課資料）

資料3-1-②-3

専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（電気工学科）

（出典 学生課資料）

資料3-1-②-4

専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（物質工学科）

（出典 学生課資料）

資料3-1-②-5

専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（建築学科）

（出典 学生課資料）

資料3-1-②-6

各学科の学位取得者及び企業経験者の配置状況

学科名	学位取得者数		企業経験者数	全教員数
	修士	博士		
機械工学科	0	9	2	11
電気工学科	1	5	3	9
物質工学科	2	6	2	9
建築学科	0	8	3	10

（出典 学生課資料）

資料3-1-③-1

専攻科の一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	小平 一郎	博士(理学)	代数学	線形代数学
教授	国分寺 三郎	修士(法学)	法哲学	技術倫理、特許と知的財産
:	:	:	:	:
准教授	マイケル・コスナー		イギリス文学	スピーチⅠ、スピーチⅡ
:	:	:	:	:
講師	立川 健	工学修士	応用物理	物理化学
:	:	:	:	:
非常勤講師	国立 五郎	修士(国文学)	文学史	コミュニケーション法

(出典 学生課資料)

資料3-1-③-2

専攻科の専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目 (機械電気工学専攻)

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況
教授	青森 喜一	博士(工学)	流体力学	工業基礎計測、特別研究	(株)小平工業12年勤務
教授	秋田 俊郎	博士(工学)	材料力学	創造設計法、特別研究	
:	:	:	:	:	:
准教授	岩手 大三郎	博士(工学)	情報通信工学	デジタル制御、特別研究	(株)杉並工業7年勤務
准教授	宮城 信二	博士(工学)	光応用計測	基礎工学演習、特別研究	国分工業(有)8年勤務
:	:	:	:	:	:
助教	山形 健太	修士(工学)	破壊工学	弾塑性理論、創造演習	(有)村山工業8年勤務

(出典 学生課資料)

資料3-1-③-3

専攻科の専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目 (物質工学専攻)

(出典 学生課資料)

資料3-1-③-4

専攻科の専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目 (建築学専攻)

(出典 学生課資料)

資料3-1-③-5

特別研究指導教員の学位取得状況及び研究実績一覧

氏名	所属専攻名	学位取得状況	主な研究実績
青森 喜一	機械電気工学専攻	博士（工学）	次世代エネルギーの導入と今後の展開
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・

(出典 庶務課資料)

資料3-2-①-1

小平工業高等専門学校教育業績委員会規則

(設置)

第1条 小平工業高等専門学校に、教員の教育研究活動等の状況及び社会貢献の業績等について点検及び評価を行うため、小平工業高等専門学校教育業績評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる教員を委員として組織し、校長をもって委員長とする。

- (1) 校長
- (2) 副校長（教務主事）
- (3) 学生主事
- (4) 寮務主事
- (5) 研究主事

(任務)

第4条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) 点検及び評価の基本方針並びに実施基準等の策定に関すること。
- (2) 点検及び評価の実施に関すること。
- (3) その他、教育業績評価に関すること。

(出典 教育業績評価委員会)

資料 3-2-①-2

業績評価のための業務申請表

学科 氏名

番号	分野	標準配点	配点の範囲	申請配点
1	教育	40	30～60	40
2	研究	20	10～40	20
3	学生生活指導	20	10～30	20
4	学内貢献	10	5～40	10
5	社会貢献	10	5～30	10
計		100	100	100

(出典 総務課保管資料)

資料 3-2-①-3

教育活動実績報告書

- 1 教育
 - 授業担当
 - 卒業研究指導
 - 特別研究指導
 - ・
 - ・

- 2 研究
 - 研究の取組
 - 学会、研究会、セミナー等への参画
 - 専門に関する論文、著書、報告書、講演等
 - ・

- 3 学生指導
 - 学級担任
 - 課外活動
- ・

(出典 総務課保管資料)

資料 3-2-①-4

教育業績評価結果とその対応(現地閲覧資料)

資料4-1-①-1

準学士課程アドミッション・ポリシー

- 理数系の基礎学力が身に付いている人
- コミュニケーション能力の基礎が備わっている人
- 科学や技術に強い関心を持っている人
- 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人

(出典 平成×年度学生募集要項 抜粋)

資料4-1-①-2

専攻科課程アドミッション・ポリシー

- 自らの専門とする技術分野の基礎学力を備えている人
- これまで修得した専門分野以外の幅広い工学分野への興味(好奇心)を持っている人
- コミュニケーション能力を身につけ、国際的にも活躍できる技術者を目指す人
- 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に開発・研究に取り組みたい人

(出典 平成×年度専攻科学生募集要項 抜粋)

資料4-1-①-3

学生募集要項

(出典 学生課資料)

資料4-1-①-4

小平工業高等専門学校入学者選抜規定

平成×年4月1日制定

(趣旨)

第1条 本校における入学者の選抜は、この規定の定めるところによる。

(入学者の選抜)

第2条 入学者の選抜は、能力・適性において高等専門学校の教育を受けるにふさわしい資質を有する者を、公正に次の2つの方法で行う。

(1) 学力選抜

(2) 推薦選抜

(学力選抜：準学士課程)

第3条 学力選抜は、次により行う。

(1) 学力検査の成績と、中学校長又は中等教育学校長から提出された調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書の総合判定による。

(2) 学力検査は、国立高等専門学校が実施する統一問題の国語、社会、数学、理科及び英語の5教科とする。

(推薦選抜：準学士課程)

第4条 推薦選抜は、次の基準を満たす者について行う。

中学校又は中等教育学校における3年次の9教科学業成績5段階評定の上位15%以内に属する者

2 推薦選抜は、中学校長又は中等教育学校長から提出された推薦書、調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書をもとに面接を行い、面接と調査書等により選抜する。

3 選抜する者の数は、各学科10名程度とする。

・
・

(合格者の決定)

第6条 合格者の決定は、入学者選抜委員会に諮り、校長が行う。

(出典 入学者選抜規定 抜粋)

資料4-1-①-5 学生募集要項の配付(配布)状況 (出典 学生課資料)
--

資料4-1-①-6 ウェブサイトに掲載しているアドミッション・ポリシー (出典 本校ウェブサイト)

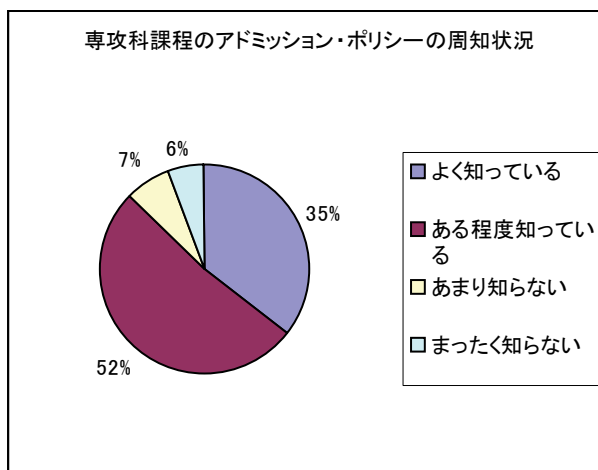
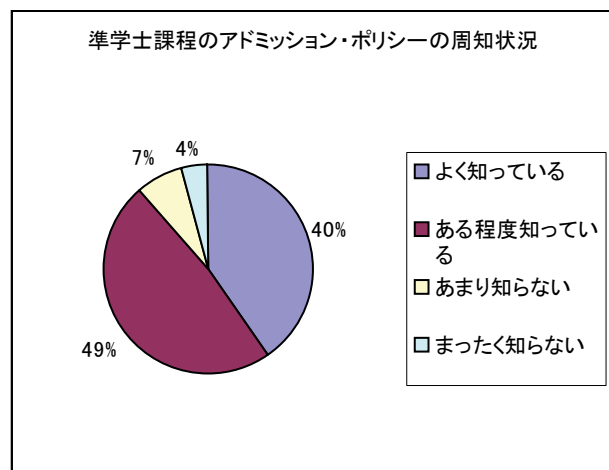
資料4-1-①-7 教員会の議事要旨 平成×年度第○回教員会議事要旨 日 時:平成×年×月×日(○)〇〇:〇〇~〇〇:〇〇 場 所:管理棟大会議室 議 事 3. その他 ・ 教務主事から教員にアドミッション・ポリシーをさらに把握・理解させるために説明があった。 (出典 平成×年×月×日 教員会議事録 抜粋)
--

資料4-1-①-8 学科会議の議事要旨 平成×年度第○回学科会議議事要旨 日 時:平成×年×月×日(○)〇〇:〇〇~〇〇:〇〇 場 所:〇〇学科中会議室 議 事 3. 報告事項 ・ 学科長から教員にアドミッション・ポリシーをさらに把握・理解させるために説明があった。 (出典 平成×年×月×日 学科会議議事録 抜粋)
--

教職員のアドミッション・ポリシーの把握状況を確認したアンケート調査結果

- | | |
|---|---|
| <p>1. 本校の準学士課程のアドミッション・ポリシーを知っていますか。</p> <p>(1) よく知っている</p> <p>(2) ある程度知っている</p> <p>(3) あまり知らない</p> <p>(4) まったく知らない</p> | <p>2. 本校の専攻科課程のアドミッション・ポリシーを知っていますか。</p> <p>(1) よく知っている</p> <p>(2) ある程度知っている</p> <p>(3) あまり知らない</p> <p>(4) まったく知らない</p> |
|---|---|

	準学士課程のアドミッション・ポリシー	専攻科課程のアドミッション・ポリシー
よく知っている	50人	44人
ある程度知っている	60人	64人
あまり知らない	9人	9人
まったく知らない	5人	7人



(出典 平成×年×月×日 学科会議議事録 抜粋)

資料4-1-①-10

平成×年度学校説明会

1. 日 時 平成×年×月×日(○) ○○:○○～○○:○○

2. 会 場 小平工業高等専門学校

3. プログラム

13:00 開会挨拶

小平工業高等専門学校校長

小平 一郎

13:10 説明会

小平高専について

小平工業高等専門学校教務主事

国立 太郎

アドミッション・ポリシーについて

小平工業高等専門学校教務主事

国立 太郎

14:30 校内施設等案内

- ・
- ・
- ・

4. 配布資料

1. ……………
2. ……………
3. 平成×年度学生募集要項
4. ……………

(出典 平成×年×月×日 学校説明会プログラム)

○小平工業高等専門学校入学者選抜規定

平成×年4月1日制定

(趣旨)

第1条 本校における入学者の選抜は、この規定の定めるところによる。

(入学者の選抜)

第2条 入学者の選抜は、能力・適性において高等専門学校の教育を受けるにふさわしい資質を有する者を、公正に次の2つの方法で行う。

(1) 学力選抜

(2) 推薦選抜

(学力選抜:準学士課程)

第3条 学力選抜は、次により行う。

(1) 学力検査の成績と、中学校長又は中等教育学校長から提出された調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書の総合判定による。

(2) 学力検査は、国立高等専門学校が実施する統一問題の国語、社会、数学、理科及び英語の5教科とする。

(推薦選抜:準学士課程)

第4条 推薦選抜は、次の基準を満たす者について行う。

中学校又は中等教育学校における3年次の9教科学業成績5段階評定の上位15%以内に属する者

2 推薦選抜は、中学校長又は中等教育学校長から提出された推薦書、調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書をもとに面接を行い、面接と調査書等により選抜する。

3 選抜する者の数は、各学科10名程度とする。

・
・
・
・
・

(合格者の決定)

第6条 合格者の決定は、入学者選抜委員会に諮り、校長が行う。

(出典 入学者選抜規定 抜粋)

資料4-2-①-2

学力選抜の方法

V 学力選抜(学力検査による入学者の選抜)

4. 選抜の方法

学力検査、中学校長又は中等教育学校長から提出された調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書により、高等専門学校の教育を受けるにふさわしい資質を有する人を選抜します。

- (1) 学力検査は筆記試験とします。
- (2) 出題する教科は、国語・社会・数学・理科及び英語の5教科です。
- (3) 検査日時 平成×年×月×日(○)

時間	9:30～10:20	10:40～11:30	11:50～12:40	13:30～14:20	14:40～15:30
教科	理 科	英 語	数 学	国 語	社 会

5. 学力検査の実施場所

小平工業高等専門学校

(出典 平成×年度入学者選抜要項 抜粋)

入学志望理由書

小平工業高等専門学校

平成 年 月 日

受験番号		氏名
志望学科	学科	

入学の志望理由として、下記項目で該当するものに、◎あるいは○を記して下さい。該当しない場合は空欄のままで結構です。また、その他の志望理由がある場合は、その他の欄に記してください。

◎・・・強い ○・・・普通 空欄・・・該当しない

() 理数系の科目が好きだから

() 科学や技術に強い関心を持っているから

() 新しいものをつくり出す力を身に付け、実行力のある技術者になりたいから

その他： _____

(注) 必ず本人自筆のこと。

(出典 平成×年度入学者選抜要項 抜粋)

資料4-2-①-4

アドミッション・ポリシーと入学者選抜方法の対応表(準学士課程 学力選抜)

アドミッション・ポリシー	入学者選抜方法
○ 理数系の基礎学力が身に付いている人	数学、理科の学力試験点を1.5倍とすることで考慮
○ コミュニケーション能力の基礎が備わっている人	国語の学力試験点を1.5倍とすることで考慮
○ 科学や技術に強い関心を持っている人	入学志望理由書により確認
○ 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人	入学志望理由書により確認

(出典 入学者選抜委員会資料 抜粋)

資料4-2-①-5

平成×年度入学者選抜試験判定票(学力)

機械工学科

合 否	志 望 学 科	順 位	受 験 番 号	学力検査						調査書	入学志望 理由書	出身中学 校等
				国 語	社 会	数 学	英 語	理 科	合 計			

(出典 入学者選抜試験判定票(学力) 様式)

資料4-2-①-6

推薦選抜の方法

1. 出願資格及び選抜方法

1) 出願資格

次の条件を全て満たし、中学校長又は中等教育学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人

- (1) 平成×年×月に中学校卒業見込みの人又は中等教育学校前期課程修了見込みの人
- (2) 本校入学の意志が特に強固で、志望の動機・理由が明確であり、志望学科に対して適性を有する人
- (3) 中学校又は中等教育学校における3年次の9教科学業成績5段階評定の上位15%以内に属する人

2) 選抜方法

中学校長又は中等教育学校長から提出された推薦書、調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書をもとに面接を行い、面接と調査書により選抜します。

(出典 平成×年度学生募集要項 抜粋)

資料4-2-①-7

推薦選抜時の面接指針

3. 面接について

- ・ アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜する。
 - 理数系の基礎学力が身に付いている人
 - コミュニケーション能力の基礎が備わっている人
 - 科学や技術に強い関心を持っている人
 - 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人
- ・ 5つの評価項目それぞれについて、10段階の評価基準にしたがって、1点刻みで評価する。その得点の合計を評点(50点)とする。志願者の面接評点は3名の面接官の評点を平均したものとする。

質問事項	評価項目
①理数系の基礎学力が身に付いている人	調査書で確認する。
②コミュニケーション能力の基礎が備わっている人	○質問の意味を理解し、的確に回答しているか。 ○自分の考えや意見を進んで述べているか。
③科学や技術に強い関心を持っている人	○志望動機がはっきりしているか。 ○ものづくりに対する興味、関心はあるか。
④自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人	○自分で進んで学習し、技術の進展に対応することができるか。 ○苦労、困難を乗り越える忍耐力はあるか。
⑤その他(全般的な印象)	○面接に臨む態度はどうか。 ○周囲と協力してうまくやっけていけるか。

(出典 平成×年度推薦入学者選抜実施要領 抜粋)

資料4-2-①-8

平成×年度入学者選抜試験判定票（推薦）

機械工学科

合否	志 望 学 科	受 験 番 号	推薦書	調査書	入学志望理由書	面接	出身

（出典 入学者選抜試験判定票（推薦） 様式）

資料 4-2-②-1

準学士課程アドミッション・ポリシーに沿った学生が採用されているかの検討

入試においてアドミッション・ポリシーに沿って学生が選抜されているか否か、平成〇〇年度に学力選抜で入学した学生と推薦選抜で入学した学生の比較・分析を行う。

1. アドミッション・ポリシー

- 理数系の基礎学力が身に付いている人
- コミュニケーション能力の基礎が備わっている人
- 科学や技術に強い関心を持っている人
- 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人

2. 各事項の検討

アドミッション・ポリシーに関連する事項として下記の事項を検討する。

(1). 一般科目の成績

- 理数系の基礎学力が身に付いている人
 - ・ 理科、数学の3年次までの定期試験の学力試験点で分析
- コミュニケーション能力の基礎が備わっている人
 - ・ 国語の3年次までの定期試験の学力試験点で分析

(2). 専門科目の成績

- 科学や技術に強い関心を持っている人
 - 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人
 - ・ 実験・実習系の専門科目の5年次までの定期試験の学力試験点で分析
- (3). 卒業率

3. 結果

表 1. 平成〇×年度3年次までの一般科目の状況

学科	科目	学生の平均点	学力選抜で入学した学生の平均点	推薦選抜で入学した学生の平均点
機械工学科	理科	76	69	83
	数学	76	68	84
	国語	81	74	87
電気工学科	理科	76	67	85
	数学	79	70	87
	国語	82	75	88
物質工学科	理科	74	66	82
	数学	77	71	83
	国語	83	77	89
建築学科	理科	77	71	82
	数学	77	68	86
	国語	79	74	84
全学科	理科	76	68	83
	数学	77	69	85
	国語	81	75	87

資料 4-2-②-1 続き

表 2. 平成〇×年度 5 年次までの実験・実習系の専門科目の状況

学科	科目	学生の平均点	学力選抜で入学した 学生の平均点	推薦選抜で入学し た学生の平均点
機械工学科	機械工学実験	87	81	92
	機械工学実習	88	82	93
	創造実習	85	79	90
	:	:	:	:
	:	:	:	:
	平均	83	77	88
電気工学科	電気工学実験	84	76	91
	電気工学実習	84	75	93
	電気電子製図	85	78	92
	創造実習	85	77	93
	:	:	:	:
	:	:	:	:
	平均	88	83	93
物質工学科	物質工学実験	88	83	93
	物質工学実習	87	81	92
	創造実習	88	82	94
	:	:	:	:
	:	:	:	:
	平均	84	79	89
建築学科	建築学実験	87	82	92
	建築学設計	89	84	93
	創造実習	87	81	92
	:	:	:	:
	:	:	:	:
	平均	86	81	90
全学科		85	80	90

資料4-2-②-1続き

表3. 準学士課程卒業率の推移

学科	年度	入学者数 (人数)		卒業者数 (人数)		卒業率 (%)	
		一般	推薦	一般	推薦	一般	推薦
機械工学科	平成14年度	133	30	128	29	96	97
	平成15年度	129	32	125	31	97	97
	平成16年度	134	29	130	28	97	97
	平成17年度	132	31	129	30	98	97
	平成18年度	133	28	129	27	97	96
	平均	132	30	128	29	97	97
電気工学科	平成14年度	:	:	:	:	:	:
	平成15年度	:	:	:	:	:	:
	平成16年度	:	:	:	:	:	:
	平成17年度	:	:	:	:	:	:
	平成1年度	:	:	:	:	:	:
	平均	:	:	:	:	:	:
物質工学科	平成14年度	:	:	:	:	:	:
	平成15年度	:	:	:	:	:	:
	平成16年度	:	:	:	:	:	:
	平成17年度	:	:	:	:	:	:
	平成18年度	:	:	:	:	:	:
	平均	:	:	:	:	:	:
建築学科	平成14年度	:	:	:	:	:	:
	平成15年度	:	:	:	:	:	:
	平成16年度	:	:	:	:	:	:
	平成17年度	:	:	:	:	:	:
	平成18年度	:	:	:	:	:	:
	平均	:	:	:	:	:	:
全学科		:	:	:	:	:	:

(出典 平成×年×月×日 入学試験委員会資料 抜粋)

資料4-2-②-2

入学試験委員会の議事要旨

平成○×年度第○回入学試験委員会議事要旨

日 時:平成○×年×月×日(○)○○:○○~○○:○○

場 所:管理棟小会議室

議 事

2. 入学者選抜の改善について

- ・ 理科、数学、国語を傾斜配点することについて、各学科で検討したところ、全学科ともに問題ないとの判断であった。このことから、平成×○年度の学力選抜から傾斜配点を導入することとした。
- ・ 推薦枠を20%程度から25%程度に引き上げるについて、各学科で検討したところ、全学科ともに問題ないとの判断であった。このことから、平成×○年度の推薦入試から推薦枠を25%に引き上げることとした。

(出典 平成○×年×月×日 入学試験委員会議事録 抜粋)

資料 5 - 1 - ① - 1

機械工学科の授業科目一覧（一般・専門、必修・選択等の別）

（出典 学生便覧 P. 〇）

資料 5 - 1 - ① - 2

電気工学科の授業科目一覧（一般・専門、必修・選択等の別）

（出典 学生便覧 P. 〇）

資料 5 - 1 - ① - 3

物質工学科の授業科目一覧（一般・専門、必修・選択等の別）

（出典 学生便覧 P. 〇）

資料 5 - 1 - ① - 4

建築学科の授業科目一覧（一般・専門、必修・選択等の別）

（出典 学生便覧 P. 〇）

資料 5 - 1 - ① - 5

機械工学科の教育課程の体系性と科目系統図

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名
1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。	〇〇〇(必修)	〇〇〇(必修) 〇〇〇(必修)	〇〇〇(必修) 〇〇〇(必修) 〇〇〇(選択)	〇〇〇(必修) 〇〇〇(必修) 〇〇〇(選択)	〇〇〇(必修) 〇〇〇(必修) 〇〇〇(選択)
2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	〇〇〇(必修) 〇〇〇(必修)	〇〇〇(必修)	〇〇〇(必修) 〇〇〇(選択) 〇〇〇(必修)	〇〇〇(必修) 〇〇〇(選択)	〇〇〇(必修)
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

(出典 平成×年度シラバスP. 〇)

資料 5-1-①-6

電気工学科の教育課程の体系性と科目系統図

(出典 平成×年度シラバス P. 〇)

資料 5-1-①-7

物質工学科の教育課程の体系性と科目系統図

(出典 平成×年度シラバス P. 〇)

資料 5-1-①-8

建築学科の教育課程の体系性と科目系統図

(出典 平成×年度シラバス P. 〇)

資料 5-1-①-9

英語教育全般の具体的目標

(出典 平成×年×月×日 英語教育 WG 資料)

資料 5-1-①-10

英語教育に関する授業科目のシラバスの具体的目標に対応している箇所抜粋

(出典 平成×年度シラバス P. 〇)

資料 5 - 2 - ① - 1

学生が卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合

学生が卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合を示す表

学 科 名	学 年	合計単位数 割合	心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。				人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。				国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。				実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。			
			講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計
機械工学科	1年	合計単位数	20	8	12	40	20	8	12	40	20	8	12	40	20	8	12	40
		割合	50.0%	20.0%	30.0%	100.0%	50.0%	20.0%	30.0%	100.0%	60.0%	20.0%	20.0%	100.0%	40.0%	20.0%	40.0%	100.0%
	2年	合計単位数	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
		割合	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%
	3年	合計単位数	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
		割合	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%
	4年	合計単位数	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
		割合	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%
	5年	合計単位数	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
		割合	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%
電気工学科	:	合計単位数	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
		割合	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%
物質工学科	:	合計単位数	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
		割合	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%
建築学科	:	合計単位数	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
		割合	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%	:%	:%	:%	100.0%

(出典 ○○○○)

資料 5 - 2 - ① - 2

「生命倫理」のシラバスの抜粋

(出典 シラバス P. ○)

資料 5 - 2 - ① - 3

「生命倫理」におけるレポートの抜粋など、授業内容が確認できる資料

(出典 ○○○○○)

資料 5-2-①-4

「総合英語」、「英語スキルズ」のシラバスの抜粋

(出典 シラバス P. 〇)

資料 5-2-①-5

「総合英語」、「英語スキルズ」におけるパソコン用教材の概要

(出典 教材の使用マニュアル)

資料 5-2-①-6

「論文読解」のシラバスの抜粋

(出典 シラバス P. 〇)

資料 5-2-①-7

「論文読解」に用いた教材

(出典 「論文読解」第〇回教材)

資料 6-1-①-1

教務委員会の組織体制及び規則

(出典 庶務課資料)

資料 6-1-①-2

専攻科委員会の組織体制及び規則

(出典 庶務課資料)

資料 6-1-①-3

卒 業 要 件

機械工学科

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	達 成 要 件
1	「保健体育」、「地理歴史」、・・・を取得していること。
2	「国語」、「数学」、「物理」、・・・を取得していること。
3	「英語」、「総合英語」、「工業英語」、・・・を取得していること。
4	「創造演習」、「卒業研究」、・・・を取得していること。
・	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

電気工学科

物質工学科

建築学科

(出典 平成×年×月×日 教務委員会資料)

資料 6-1-①-4

修 了 要 件

専攻科 ○○専攻

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力	達 成 要 件
A	「技術者倫理」、・・・を取得していること。
B	「法学」、「哲学」・・・のうち、○科目以上取得していること。
C	「英語コミュニケーション」、・・・を取得していること。
D	「インターンシップ」、「特別研究」、・・・を取得していること。
.	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

専攻科 △△専攻

--

(出典 平成×年×月×日専攻科委員会資料 抜粋)

資料 6-1-①-5

平成×年度準学士課程 卒業要件確認表

機械工学科 (5年)

氏 名	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力					卒業要件 の判別	卒業認定
	1	2	3	4	・・・		
○○○○	○	○	○	○	・・・	○	○
△△△	○	○	○	○	・・・	○	○
□□□□	○	○	○	○	・・・	○	○
××××	○	○	○	○	・・・	○	○
.			
.			

電気工学科 (5年)

--

物質工学科 (5年)

--

建築学科 (5年)

--

(出典 平成×年×月×日 教務委員会資料)

資料6-1-①-6

平成×年度専攻科課程 修了要件確認表

〇〇専攻（2年）

氏名	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力					修了要件 の判別	修了認定
	A	B	C	D	・・・		
〇〇〇	○	○	○	○	・・・	○	○
××××	○	○	○	○	・・	○	○
・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・			

△△専攻（2年）

--

(出典 平成×年×月×日 専攻科委員会資料)

資料6-1-①-7

学生が卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成状況の検証内容が確認できる議事録の抜粋

(出典 平成×年×月×日教務委員会議事録 抜粋)

資料6-1-①-8

学生が修了時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成状況の検証内容が確認できる議事録の抜粋

(出典 平成×年×月×日専攻科委員会議事録 抜粋)

資料 6-1-②-1

学士課程 5 年次における単位修得状況

機械工学科

卒業時に身に付けるべき 学力や資質・能力	科目名	平成 X 年度 単位修得率	前年度 単位修得状況
1	保健体育	100%	100%
	地理歴史	98%	97%

2	国語	96%	94%
	数学	99%	97%
	物理	100%	97%

...
平均値		98%	95%

電気工学科

--

物質工学科

--

建築学科

--

(出典 平成×年×月×日 教務委員会資料)

資料 6-1-②-2

専攻科 2 年次における単位修得状況

専攻科 ○○専攻

卒業時に身に付けるべき 学力や資質・能力	科目名	平成 X 年度 単位修得率	前年度 単位修得状況
A	技術者倫理	99%	100%

B	法	98%	97%
	哲学	99%	98%

...
平均値		99%	98%

専攻科 △△専攻

--

(出典 平成×年×月×日 専攻科委員会資料)

学習等達成度記録簿

機械工学科

氏名 _____

○学習達成度の自己点検

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	5【達成した】→・・・→1【未達成である】				
	1年	2年	3年	4年	5年
1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。					
2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野にける基礎学力を修得する。					
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。					
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。					
・					
・					
・					

(出典 平成×年度「学習等達成度記録簿」抜粋)

資料6-1-④-2

学習等達成度記録簿の分析【平成17年度準学士課程卒業生】

①学習等達成度記録簿の分析【平成17年度機械工学科卒業生】

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。	3.15
2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	3.84
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	3.02
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	3.55
・	
・	
・	

②学習等達成度記録簿の分析【平成17年度電気工学科卒業生】

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。	3.22
2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	3.56
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	2.89
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	3.69
・	
・	
・	

資料 6 - 1 - ④ - 2 続き

③学習等達成度記録の分析【平成 17 年度物質工学科卒業生】

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能	平均値
1 心ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。	3.05
2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	3.89
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	3.14
4 実践的技術者として、工学の専識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	3.60
・	
・	
・	

④学習等達成度記録の分析【平成 17 年度建築学科卒業生】

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
1 心身ともに全であり、社会性及倫理観を身に付ける。	3.02
2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	3.33
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	3.22
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	3.89
・	
・	
・	

(出典 平成×年×月×日 教育改善委員会資料)

学習等達成度記録簿の分析【平成 17 年度専攻科課程修了生】

①学習等達成度記録簿の分析【平成17年度〇〇専攻修了生】

修了時に身付けるべき学力や資質・能力	平均値
A 技術者が担う社会的責任、科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。	3.33
B 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に応用できる能力に付ける。	3.65
C 豊かな国際感覚を持ち、英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身に付ける。	2.88
D 開発型技術者として、工学の深い専門知識と問題解決能力や創造性、意欲を身に付ける。	3.50
・ ・ ・	

②学習等達成度記録簿の分析【平成 17 年度△△専攻修了生】

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
A 技術者が担う社会的責任、科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。	3.11
B 人文科学、会科学自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に応用できる能力を身に付ける。	3.78
C 豊かな国際感覚を持ち、英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身に付ける。	.02
D 開発型技術者として、工学の深い専門知識と問題解決能力や創造性、意欲を身に付ける。	3.44
・ ・ ・	

(出典 平成×年×月×日 教育改善委員会資料)

資料 6-1-⑤-1

卒業（修了）生によるアンケート結果

(3) 本校で設定している準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、在学時に、どの程度身に付いたかについて、5段階評価でお答えください。(5【十分身に付けた】→4【身に付けた】→3【どちらとも言えない】→2【あまり身に付かなかった】→1【まったく身に付かなかった】)

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。	3.02
2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	3.76
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	.62
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	3.45
.	

(4) 本校で設定している専攻科課程の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、在学時に、どの程度身に付いたかについて、5段階評価でお答えください。(5【十分身に付けた】→4【身に付けた】→3【どちらとも言えない】→2【あまり身に付かなかった】→1【まったく身に付かなかった】)

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
A 技術者が担う社会的責任、科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。	3.22
B 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に応用できる能力を身に付ける。	3.67
C 豊かな国際感覚を持ち、英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身に付ける。	2.85
D 開発型技術者として、工学の深い専門知識と問題解決能力や創造性、意欲を身に付ける。	3.37
.	

(5) 卒業（修了）後に発揮できていると考えている、本校での教育、学習の成果等を挙げて下さい。

- ・ 専門分野の基礎を十分理解したので、実際の問題へ応用ができる。
- ・ 技術者として必要な基礎学力や専門知識資質が身につき、活用できている。

(出典 「平成×年度卒業（修了）生のアンケート結果報告書」抜粋)

資料 6-1-⑤-2

進路先、就職先のアンケート結果

(3) 本校で設定している準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、本校の卒業生がどの程度身に付けていると評価するか5段階評価でお答えください。(5【十分身に付けている】→4【身に付けている】→3【どちらとも言えない】→2【あまり身に付けていない】→1【まったく身に付けていない】)

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。	3.33
2 人文科学、社会科学、自然科学及工学等の分野における礎学力を修得する。	3.68
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	2.88
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	3.69
・	

(4) 本校で設定している専攻科課程の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、本校の修了生がどの程度身に付けていると評価するか5段階評価でお答えください。(5【十分身に付けている】→4【身に付けている】→3【どちらとも言えない】→2【あまり身に付けていない】→1【まったく身に付けていない】)

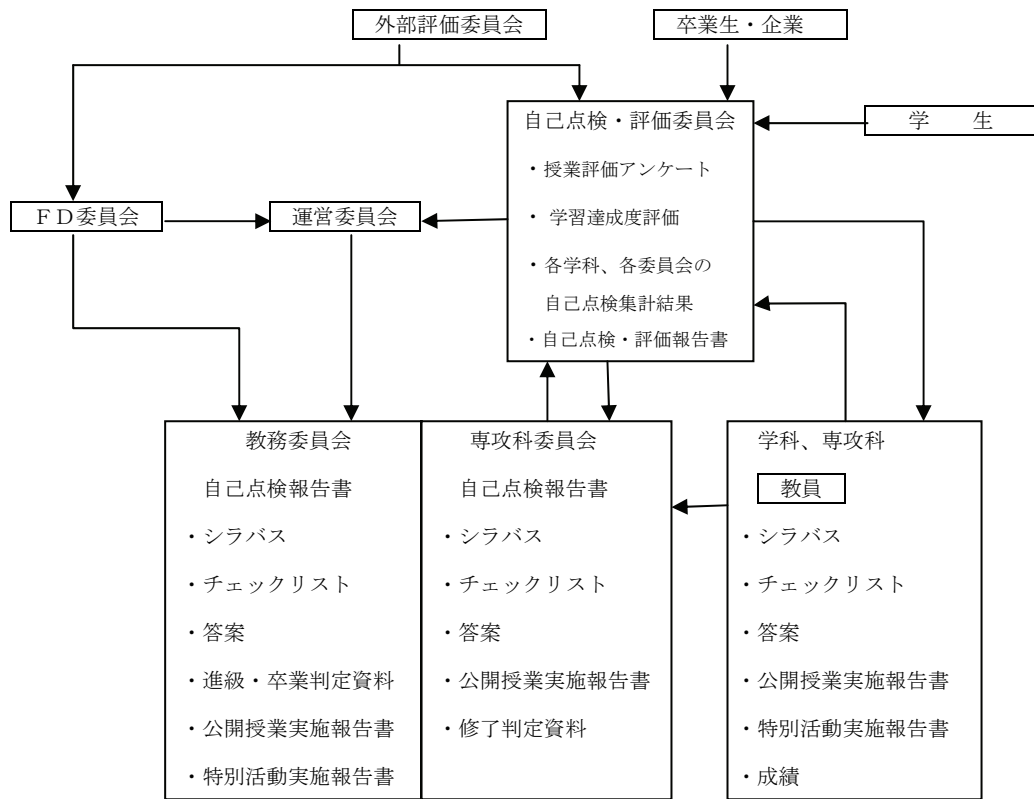
修了時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
A 技術者が担う社会的責任、科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。	3.33
B 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に応用でき能力を身に付け。	3.91
C 豊かな国際感覚を持ち、英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身に付ける。	2.99
D 開発型技術者として、工学の深い専門知識と問題解決能力や創造性、意欲を身に付ける。	3.45
・	

(5) 本校の卒業（修了）生が在学時に受けた教育の成果として考えられることを挙げて下さい。

- ・ チームワークを発揮して、現場重視の姿勢で活躍している。
- ・ 目標をしっかり見据え、自分で調査、実践する能力が優れている。
- ・ 地道に研究を行い、その成果を国際学会で発表するなど活躍している。

(出典 「平成×年度進路先、就職先のアンケート結果報告書」 抜粋)

データや資料の収集、評価を実施する体制



(出典 自己点検・評価委員会 規則 抜粋)

資料 9 - 1 - ① - 2

表 教育活動に係るデータ、資料の管理

教育活動に関するデータ、資料	収集担当委員会	蓄積場所
学生成績表（準学士課程）	教務委員会	教務課
答案（準学士課程）	教務委員会	教務課
進級・卒業判定の資料（準学士課程）	教務委員会	教務課
シラバス	教務委員会	教務課
学生成績表（専攻科課程）	専攻科委員会	教務課
答案（準学士課程）	専攻科委員会	教務課
修了判定の資料（専攻科課程）	専攻科委員会	教務課
シラバス	教務委員会	教務課
授業評価アンケート	自己点検・評価委員会	評価資料室
学生による達成度評価（準学士課程）	自己点検・評価委員会	評価資料室
学生による達成度評価（専攻科課程）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（機械工学科）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（電気工学科）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（物質工学科）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（建築学科）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（教務委員会）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（専攻科委員会）	自己点検・評価委員会	評価資料室

(出典 自己点検・評価委員会 資料 抜粋)

資料 9 - 1 - ② - 1

小平工業高等専門学校自己点検・評価委員会要領

平成 3 年 4 月 1 日

運営委員会委員長裁定

小平工業高等専門学校自己点検・評価委員会要領

(趣旨)

第 1 条 小平工業高等専門学校運営委員会規程第 7 条に基づき、小平工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育・研究活動の状況について、自ら点検及び評価を行い、本校の教育・研究水準の向上を図り、かつ、社会的使命を達成するために、自己点検評価委員会（「以下」員会という。）を置く。

...

(点検評価の実施)

第 8 条 委員会は、原則として毎年、点検評価を行うものとする。

2 委員会は、点検及び評価の結果を運営委員会に報告するものとする。

3 運営委員会は、委員会からの報告に基づき、点検・評価の総括を行い、校長に報告するものとする。

...

(点検評価への対応)

第 10 条 校長は、委員会が行った点検・評価に基づき、改善を必要とすると認められる事項については、関係の実施組織に、その改善の検討を付託するものとする。

2 校長は、自己点検・評価の結果を社会に公表するものとする。

(出典 小平工業高等専門学校規程集)

資料9-1-②-2

教員自己評価報告書

(出典 教員自己評価報告書)

資料9-1-②-3

職員研修アンケート結果

(出典 職員研修アンケート)

資料9-1-②-4

授業評価アンケート結果

(出典 授業評価アンケート)

資料9-1-②-5

平成20年度
小平高専卒業生・修了生、企業・大学対象
アンケート

(出典 卒業生、修了生、企業対象アンケート)

資料9-1-②-6

外部評価報告書

(出典 外部評価報告書)

自己点検・評価報告書

—小平高専の現状・課題と改善の方向について—

目次

まえがき

第 1 章 教育理念・目標

1・1 教育理念と本校の目的

1・2 教育目標

学生アンケートの結果も踏まえ、教育目標をわかりやすい表現とする見直しを図る。・・・

・

第 2 章 準学士課程の教育活動

2・1 学科の構成

2・2 学科及び一般科目の教育目標

2・3 教育課程の編成

外部評価委員会の提言を受けて「科目流れ図」に一般科目も含めて考える・・・
「創成科目」「インターンシップ」への教員の負担軽減を図る・・・

・

第 3 章 専攻科課程の教育活動

3・1 専攻科の構成

・

3・5 成績評価・単位認定

シラバスでは、科目ごとに自学・自習の時間についても明記し、・・・

・

第 7 章 教育改善活動

7・1 教育改善活動

保護者への公開授業を平成 20 年度も続ける・・・

授業公開・授業観察による教員相互の授業評価を実施し、教授法の・・・

優れた取組の教育方法を学内で共有できるようにするシステム作り・・・

・

7・3 教員顕彰制度

授業改善や担任指導の面で、優れた実績を上げた教員を・・・

・

あとがき

(出典 平成 20 年度小平工業高等専門学校自己点検・評価報告書)